

**色水遊びを追求する**  
**出雲市立稗原幼稚園（島根県出雲市）** 【4・5歳児混合】

**【事例】「いろいろな色の出し方、発見したよ！」**

**教師の願い**  
 4歳児：色水遊びを通して身近な自然の草花に親しみ、友達とイメージをふくらませながら遊んで欲しい。  
 5歳児：自分なりの方法で色水遊びを楽しんで欲しい。また、気付いたことや疑問に思ったことなどを友達に伝えながら一緒に考えたり、力を合わせて解決へ向けた取り組みをしたりして欲しい。

幼児の活動・ 4歳児・ 5歳児

**「草で色水を作って遊ぼう！」 4月下旬**

・よもぎ団子作りのゆで汁をきっかけに草の色水に興味をもつ。  
 A児：バケツいっぱいに入れた水に、よもぎをスコップでかき混ぜる。  
 B児：「それじゃあ、だめだよ」  
 A児：知らん顔で、そのまま続ける。  
 T：遊んだ後の話し合いに、色水や材料、道具を見せ合う。  
 A児：「まだちょっと、失敗したかも」  
 A児：翌日、「今日こそ色を出さぞ」と道具選びも真剣！自ら進んで色水材料を探しはじめる。

**気持ちの流れ**



友達の色水と見比べる。(感じる・気付く)

お話しタイムでの友達の話をヒントに道具や材料を選ぶ。(試す)

草から色を出すのは難しい。(困難)



濃く紙を染めるというめあてをもち、自分のやり方を試す。

「きれいな色に染めたい」と期待感をもち、友達を見る・まねる

**読み取りと援助**

花壇の花で色水を楽しむ様子から、自然の草花でも色水ができる楽しさを味わわせたいと、小学校の校庭へと場を移す。  
 自分が色が出せそうな道具（ザル・すり鉢・すりこ木・おろし器・石など）をひとつ(持てる数)選**び移動**する。  
 作った色水を見せ合う。使った草花や色水の出し方、使った道具などを紹介し合う。(お話しタイム)

4歳児は、草からは思うような色が出ず、きれいな色の花がないことに、つまらなさを感じているのでは…。つつじ・露草・小さな野の花なども咲いていることを知らせ、一緒に探す。  
一人一人が何に興味やつまずきを感じているのかを探る。

水加減など考えないままに色を出していたが、「作品をプレゼントにしよう」という展開をきっかけにして、「色の濃さ」も工夫し試せるような働きかけをする。  
 どの紙が濃く染まるのか、自分で選んだり、試したりすることができるように、いろいろな素材の紙を用意する。(半紙・障子紙・吸い取り紙・画用紙)  
 4歳児には、5歳児などまわりの友達の取り組む姿が見えたり、一緒に紙染めや色水作りができるような材料置き場を設定する。

**「色が出ないよ…」 5月上旬 4歳児**

A児：校庭で草花を探すうちに、鶏に餌をやるなど興味が移る。  
 B児：淡々とバケツいっぱいの色水をかき混ぜている。  
 C児：容器を満タンにしたいと色水に水をどんどん足す。  
 D児：何本もペットボトルに色水を作り、並べる。など

**「紙染めて難しいね…」 6月上旬**

歳児：濃い色になるには？  
 ・「障子紙が、1番、色水が染まると思ってやってみたら染まったよ」  
 ・「ずーっと漬けておいたらいいかもしれないよ」と色水の中に画用紙を漬ける。ところが、今まで以上に濃く染まるが、水を吸い込み紙がボロボロになる。  
 ・「そうだ！水なしでするといいかも！」  
 ・「葉っぱの汁を紙にこすったら、1番、濃く染まったよ！」  
 歳児：課題ができたことで、「どうやったら色が濃くなるの？」と慌てる。

**「色水の出し方を見付けたよ」(スリスリ・トントン・ギュッギュツ) 6月下旬 4歳児**

お話しタイムの中で同じ花で染めたのに、色が違う紙(C児・D児の紙)を見せ合う。  
 C児：「この花でスリスリしたよ」と、紙に花を直接こすりつける。

同じ花で染めたのに、色が違う紙を見せ合い、色の出し方、水かげん、道具などの違いを感じさせたいと考え、話し合いに取り上げる。

D児：「同じ花で、指でトントンしたよ」と型押しのように紙に押し付ける。  
子どもたち：「すごい」とびっくりする。

「今日はどの色の出し方をしようかな」と、遊び方を選び、取りかかるようになる。

E児：「とんかちでトントンしたら、葉っぱの形に染まったよ」

C児：「ギュッギュッてしたら泡がたくさん出たよ」

「スリスリ・トントン・ギュッギュッ」の表現が親しまれ、子どもたちの方から色の出し方について話すようになる。

「スリスリ」や「トントン」などの言葉と行動がつながり、子どもたちは、色の出し方について、イメージしやすくなった。(イメージする)  
(選ぶ・試す)

「スリスリ」や「トントン」の言葉を、クラスの合い言葉とし、色の出し方、遊び方についての話題やイメージが共有できるようにする。  
(言葉、写真を掲示する)



トントン



4歳児：「色水作りの面白さを知ったC児」

これまで、色水遊びをするものの、自分の思う色が出せず、すぐに他の遊びへと気が移る。

時には、砂場から「コーヒーの色水だよ」と言いながら、色水遊びの友達へ声をかける。

自分が見付けた色の出し方を「スリスリしたよ」と素直に表現する。わかりやすい表現が、友達に受け入れられ、友達も「トントン」「ギュッギュ」などで言い表すようになる。

色水遊びの場へ寄って行くようになる。ある日、ヨウシュヤマゴボウの若葉を摘み、手いっぱい握り締める。そのうちに、手の中に色ができている事を見付ける。「ギュッギュッてしたら泡の色水がたくさん出たよ！」色水のおもしろさを感じ、遊びを繰り返す。



ギュッギュ



「ギュッギュの葉っぱを見つけた！」

C児：これまで色水を苦手としていたが、色の出し方「スリスリ」や「ギュッギュッ」を教師や友達に認められたことで自信をもち、色水遊びに興味をもつ。

・日々、色水遊びを続ける。

・C児：「とんがった葉っぱは、ギュッギュッしても色水が出ないけど、ヨウシュヤマゴボウと、あそこの葉っぱはギュッギュッしたら色が出たよ」といろいろな葉っぱで試し、気付いたことを伝える。

・いろいろな葉っぱに興味をもつ。  
(試す)

・草木の名前を知りたがるようになる。  
(知る・調べる)

季節の草花の名前にも興味をもち、「あの葉っぱ」から「の葉」と名前と言えるように草花の図鑑を置いたり、一緒に調べたりする。  
遊びの気付きや、季節の草花の移り変わる様子が感じ取れるように、子ども達の遊んだ草花の写真や気付きを壁面に貼る。

### みどころ

色水遊びで“偶然できる色”を楽しむ中で、「色が出ない」と、色の出方の違いに気がきました。「草は色を出すことが難しい」「染めるのは難しい」という困難を体験したことにより、更に「作り方によってできる色が違う」という“発見”や“追求”に結びついています。思いや予想通りにならない困難を感じながらも「なぜ?」「どうして?」と考え、「やってみよう!試してみよう!」という行動する「科学する心」によって、課題を乗り越える意欲が引き出されています。